白井市郷土史の会　令和７年１月例会

「八千代と白井の中世板碑」

蕨　由美

はじめに

板碑は、鎌倉時代から室町時代に、両親の追善や自身の生前供養（逆修）などのために建てられた石の塔婆です。

地域の中世を物語る史料として、古文書や遺跡の調査事例が少ない中で、寺の境内や墓所、集落裏の山林・畑から見つかる板碑は、貴重な金石文史料となっています。今回は、隣接する八千代市と白井市の中世板碑を紹介し、また両市の板碑について比較した成果をお話しします。

1.八千代市内の板碑の集成

八千代市内で見つかった板碑のデータについては、村田一男氏により八千代市史編さん事業の中で集成され、1991 年刊行の『八千代市の歴史　資料編　原始・古代・中世』では、拓影はないが、149 基の板碑が一点ずつその出土地と銘文、梵字、法量が記述されている。

その後、2008 年刊行の『八千代市の歴史　通史編』では、25 基増えた 171 基の板碑の集計表（無刻を含む）が載っているが、25 基のデータは記載されていない。

2020 年には八千代市郷土歴史研究会による調査で、神野地区の土井昭雄家の多量の板碑群の発見があり、この成果を八千代市民文化祭「ふるさとの歴史展」で公開したことなどにより、さらに神野地区と小池地区で新に 2 基が発見され、2024 年 8 月現在、市内全体のその数約二百基を超えると推定されている。

筆者は、このうち無刻の板碑や破片を除き、市内の全有刻板碑 165 基のデータを集成し、「八千代市有刻板碑集成一覧表」を作成、さらに八千代市立郷土博物館館蔵の板碑と拓本の照合、また現地調査を行って、86 基の拓影とその翻刻をまとめ、「拓影と翻刻集」を作成し、2024 年 9 月、**『八千代市内の有刻板碑集成』**を発刊した。今回は、この『八千代市内の有刻板碑集成』のデータを基に報告する。

2.白井市内の板碑の集成

白井市では、市教育員会により発刊された『白井市埋蔵文化財調査集報 平成 23 年度～26 年度』、『同 平成 27・28 年度』、『同 平成 31・令和 2 年度』に、調査された白井市内の板碑のデータが掲載されている。

上記 3 冊の『集報』と、さらに『千葉縣史料　金石文篇二』（1975 年刊行）から『集報』未記載の 15 基を加え、無刻を除く 173 基の有刻板碑を抽出し、集成データとした。また、倉田恵津子氏「考古学から探る七次の板碑」など、平成 30 年第 18 回白井市文化財講演会配布資料を参考にした。

２．　板碑とその種類

「板碑」とは、板状の石材に仏像を表す種子（しゅじ）や被供養者名や年月日を刻んだ石塔で、鎌倉時代から室町時代の仏教の供養塔である。関東では、埼玉県を中心に広く分布する緑泥片岩を板状に加工した**「武蔵型板碑」**と、利根川下流域に分布する雲母片岩製の大型の**「下総型板碑」**がある。

千葉県北部の板碑の種類は、(1) 形態からは**武蔵型板碑・下総型板碑**、(2) 主尊からは**図像板碑・種字板碑・題目板碑・文字や図像のない板碑**がある。

1.形態から

①**武蔵型板碑**＝関東の板碑の多くは、秩父産緑泥片岩を使用し、頭部三角で二条線を刻み、薄く長細い形をした「 武蔵型板碑 」と呼ばれる板碑である。

鎌倉時代、荒川中流域（畠山・吉見・比企・川越氏の支配地）の武士団を中心に建立され、関東全域に広が

り、その数四万基との説もある。埼玉県などでは、鎌倉時代の大型の武蔵型板碑も多数みられるが、時代が下がるにつれて、小型の簡略な板碑も多量に流通し、千葉県北部では戦国時代の終わりまで続く。なお、埼玉県小川町・長瀞町ではこれらの板碑の採石場遺跡が見つかっている。

八千代・白井市内の板碑のほとんどは、この武蔵型板碑である。

千葉県内では、**千葉市真蔵院の永仁 2 年（1294 年）銘の高さ 2.31m 板碑**が優品として千葉市の文化財に指定されている。梵字は「伊字の三点」をもつ荘厳体のキリーク（阿弥陀）で、千葉常胤の三男武石三郎胤盛の母が没し菩提を弔うために建立されたものと推定される。

②**下総型板碑**＝香取市や成田市、印西市などの千葉県北部では、筑波石（黒雲母片岩）製で厚く大きめの「下総型板碑 」と呼ばれる板碑が多く分布している。

八千代市内に下総型板碑は 3 基あり、そのうち一番大きな下総型板碑が神野の**玉蔵院のアーンク**（大日如来）の梵字と百名以上の法名を刻んだ**結衆板碑**で、南北朝時代と推定され、市の文化財に指定されている。

白井市内では、唯一、法目の**仏法寺に正平 7 年**（1352 南朝年号）銘の**キリーク荘厳体の種子を刻んだ下総型板碑**がある。

2.主尊（本尊）から

①**図像板碑**＝阿弥陀三尊や一尊の姿を浮彫や線刻で表現。**日本最古の板碑は嘉禄 3 年（1227）銘 阿弥陀三尊図像板碑**（熊谷市須賀広）といわれる。

八千代・白井市内では未発見だが、印西市の 2022 年度の龍腹寺板碑調査（未報告）で、**地蔵を浮き彫りにした板碑**が見つかっている。

②**種字板碑＝阿弥陀一尊**（キリーク）板碑、**阿弥陀三尊**（キリークと脇侍のサとサク）板碑のほか、まれに**釈迦**（バク）、**観音**（サ）、**大日如来**（アーンク）、**十三仏板碑**などがある。

八千代市内で**阿弥陀一尊種字板碑**（例：図 1②）**は 105 基**、**阿弥陀三尊**（例：図 1③）**は 11 基**で、キリークの字体はａ類が正覚院の１基のみで、武蔵型のほとんどが異体字のｂ類である。ａ類が阿弥陀如来の坐像を表すのに対して、ｂ類のキリークは来迎する真慈悲の立像を表すという。

白井市内では、**阿弥陀一尊種字板碑**（例：図 1①）**は 114 基**、**阿弥陀三尊は 12 基**、不明の種字 19 基のほか、**釈迦一尊板碑**（例：図④）と十三仏板碑が各 2 基、阿弥陀地蔵二尊板碑が 1 基見つかっている。

キリークの荘厳体の種子板碑は、八千代市内では**米本逆水の桜井家の建武 2 年**銘の下総型板碑と、**村上厳島神社（起木弁天）**出土の武蔵型板碑の 2 基がある。

白井市内では法目の仏法寺の下総型板碑のほか、**七次から「伊字の三点」を荘厳体キリークの上部に施した破片**が見つかっている。伊字の三点を持つ板碑は、埼玉県北部と群馬県南部に分布し、千葉県内では千葉市の真蔵院に建つ武蔵型板碑が唯一といわれてきたが、最近市原市でも 1 基見つかり、白井市の本板碑と合わせると 3 基となる。伊字三点は、悉曇（しったん）の伊字の形が三点から成り立っていて、大乗の涅槃経では、法身・般若・解脱の三徳が一体不離であると教えている。

バクの種字を刻んだ**釈迦一尊の板碑**は、白井市では文化財に指定され郷土資料館で展示されている平塚地区の**乾元 2 年（1303）銘の「山本家の板碑」**（図 1④）と、法目地区で出土した元徳年間（1329～32）と推定される断碑がある。前者は、白井市内最古の紀年銘で、当時の平塚郷の領主が鎌倉幕府 15 代執権の金沢貞顕でその影響下にあったことを裏付ける史料でもある。

八千代市では、**神野の小名木家の貞和 4 年（1348）銘の板碑**が、集成作業の中で種子がバクと判明、**市内唯一の釈迦一尊板碑**であることがわかった。

十三仏板碑は、八千代市内では **2022 年に神野で初めて発見**（図 1⑤）された。

白井市内の十三仏板碑は、七次から 14 世紀後葉～15 世紀前葉とみられる断碑が見つかっているほか、長殿

の伊藤家の長享 2 年（1488）種字 12 字と花瓶、「祐信」銘の板碑データが『千葉縣史料 金石文篇二』にある。

十三仏は故人の冥界での審理に関わる 13 の仏で、十三回の追善供養（初七日～三十三回忌）をそれぞれ司る仏としても知られる。なお、千葉県内最古の十三仏板碑は、印西市吉高の羽黒十三仏堂の本尊として祀られている永和 4 年（1378）下総型板碑である。

③**題目板碑**＝「南無妙法蓮華経」の七字題目を刻む「**一遍首題**」の板碑、「南無妙法蓮華経」に「多宝如来」と「釈迦牟尼仏」の「**題目二尊**」、さらに「浄行菩薩」と「安立行菩薩」が加わった「題目四尊」板碑のほか、中央に七字 題目と二尊、四隅に四天王、左右 に愛染明王と不動明王の種子、鬼子母神と十羅刹女の文字を刻む「**曼荼羅板碑**」がある。

千葉県北部の題目板碑の分布は、中山法華経寺のある八幡庄をはじめ、臼井庄のうち八千代市北西部と船橋市高根町などの旧神保郷、多古町の千田庄に集中している。

その背景として元徳 3 年（1331）に、千葉胤貞から養子の日祐（中山門流のトップ）へその所領である千田庄・臼井庄・八幡庄内の一部の土地などの譲与が行われ、八千代市内では、嶋田村・真木野村・平戸村がその領内になったという歴史がある。（元徳三年九月四日「千葉胤貞譲状」『中山法華経寺文書』）

八千代市内の**題目板碑の数は 32 基**で、その内訳は一遍首題 17 基、題目二尊 5 基、曼荼羅 10 基で、うち 9 基には女人の信仰が篤かった鬼子母神と十羅刹女の銘がある。（表 3）

曼荼羅板碑の中でも、最も荘厳な十界曼荼羅板碑は市内では平戸と小池に 3 基あり、日蓮が神仏名を網羅して書き遺した本尊として崇敬される大曼荼羅の銘文が丁寧に刻まれている。

特に**小池の妙光寺の十界曼荼羅板碑**（図 1⑧）は、縦 50cm の小型板碑であるが、題目と法主聖人のほか 16 の神仏名が細かく刻まれ、延徳 4 年（1492）銘と、「孝子敬白／妙法比丘尼石仏」の銘がある。この板碑は『市史』にも掲載されていなかったが、今回の集成作業の中で再発見された貴重な史料である。

また 2024 年に**小池では題目二尊板碑**（図 1⑦）の新発見があった。明徳 4 年（1495）銘と「妙法尼 逆修石仏」の銘があり、自身の生前供養のため、延徳 4 年銘曼荼羅板碑と同時期に、同一の女性「妙法尼」が建立したと推定できる。2024 年の「ふるさとの歴史展」では、この 2 基の板碑を並べて展示することができた。

白井市内では、**清戸の応永 24 年（1417）銘**の船橋カントリー倶楽部の板碑（図 1⑥）に「南無妙法蓮華経／幻山八尼（妙山比尼ヵ）」の銘があるほか、**薬王寺**の「南無妙法蓮華経」断碑、**冨塚の西輪寺**の長禄 4 年（1460）「南無妙法蓮華経」銘の板碑のほか、七次に断碑 3 点、計 **6 基の題目板碑**がある。（表 4）

④**文字や種字のない板碑**＝今回の集成では破片とともに除外したが、種字や銘文の全くないほぼ完形の無刻の板碑も数多く見つかっている。これらは、未製品説（二次加工がされなかった）、後世の加工説（後から表面を削った）、粗雑な製品説などその理由は諸説ある。

２． 八千代・白井市内板碑の集計データからの考察

1.板碑の検出地の分布

八千代市内では、**神野・米本逆水・米本と日蓮宗地域である小池**など、**印旛沼西端の新川と神崎川の合流点**付近に多く分布し、支流の高野川、桑納川流域に点在する。（表 1）

白井市内では、**七次と法目など神崎川上流域**と**平塚・今井など下手賀川流域**に分布する（表 2）。

2.板碑の主尊別基数と割合

八千代市内では、**総数 165 基**のうち**種字板碑が 120 基** 73%、**題目板碑が 32 基** 19%を占める（表 3）。

白井市内では、**総数 173 基**のうち**種字板碑が 148 基**で 86%、**題目板碑が 6 基** 3%である（表 4）。

八千代市内も白井市内も**種字板碑の 8～9 割が阿弥陀一尊、1 割弱が阿弥陀三尊**で、**釈迦や十三仏の主尊の板碑も 1～2 基**見られる。

題目板碑は、八千代市内では 32 基とまとまった数が見つかっており、そのうち３割を曼荼羅板碑が占める。

3.板碑の主尊別・年代別の増減

紀年銘があって年代がわかる板碑は、八千代市内が 68 基、白井市内が 44 基である。

八千代市内では、**正應６年（1293）真木野の妙徳寺板碑**と、永仁２年（1294）の同じく真木野の神明社の断碑が**最古**である。真木野は日蓮宗地域に属するが、題目板碑ではなく種字の蓮座が刻まれている。佐山の妙福寺（日蓮宗）でも年銘はないが阿弥陀一尊板碑が、題目板碑に交じって１基見つかっており、真木野や佐山などの日蓮宗の村々も、鎌倉時代にはまだ中山法華経寺の教線が及んでいなかったと考えられる。

増減をみると、南北朝期の **1330 年代に種字板碑の数はピーク**に達し、**1370 年代にいったん終焉**し、再び **1390 年から 1510 年まで第２のピークを迎える**（表３・図２）。第２のピークは、小池・島田などの日蓮宗地域の題目板碑が４割を占める。

白井市内では、**1350 年代に第１のピーク**が、**1470 年代に第２の大きなピーク**が見られる。

この傾向は、千葉県域のグラフ（川戸彰 1983）と北総地域のグラフ（石戸啓夫 2015）に類似する。

第１のピークの 1320～1360 年は、鎌倉幕府滅亡から南北朝の戦乱期で、千葉介の継承を巡る千葉胤貞と千葉貞胤の内紛などの混乱が続いた。第２のピークの 1440～1500 年は、室町幕府将軍と鎌倉公方の不仲による永享の乱（1438～）から、関東中を戦乱に巻き込んだ享徳の乱（1455～1479）の時代である。

北総の村々にも弔うべき戦死者が増えた時代だったのか、庶民救済の中世仏教が根付いた時代であったのか、その背景はいろいろ考えられる。特に、15 世紀後葉、主尊の下中央に紀年銘のみ刻み法名がない簡略された板碑が、印旛・手賀沼周辺に特徴的な分布をする（倉田恵津子 2022）。庶民層の需要を満たすため、この地域では在地生産されたことも想定され、第２のピークは地域の特性なのか今後の研究課題である。

4.人名銘をめぐって

八千代市内では、第２のピークの題目板碑に、供養者の名がある板碑が８基あり、そのすべてが比丘尼・尼・禅尼、または日蓮宗系戒名で女性に多い「妙」の字のある板碑である。

また被供養者の銘がある題目板碑が２基あり、その銘は「〔為〕妙法〔霊〕」と「為悲母[　　]也／孝子敬白」など被供養者も女性である。

一方、非日蓮宗地域の種字板碑では、名が刻んであるのは３基のみで、うち若い男性出家者を意味する「沙弥」銘が１基（康永３年 1344）、他の２基は「妙[全]」と「〔浄〕阿弥禅〔尼〕」銘の女性名である。

また白井市清戸の応永 24 年（1417）の題目板碑も女性名である。

曼荼羅板碑の多くには、女人救済・子安信仰の女神「鬼子母神」と「十羅刹女」が刻まれており、15 世紀のこの時代、特に中山法華経寺の教域では女性の信心が多かったと考えられる。

おわりに

板碑の研究は、その形と梵字・紀年銘・人名などの記録が中心であったが、無刻板碑や、紀年銘などを欠く断碑のほうが圧倒的に多数で、これらの分類や年代の比定も課題となっている。

倉田恵津子氏は、関東・千葉県・白井市の板碑の拓影や実物観察から武蔵型種字板碑を分類し、考古学的な分析を行い、関東の河川の流路と板碑の流通、特に二次生産地についての優れた論考を報告されている。

また『八千代市の歴史　通史編』（平成 20 年）では、拓影の蓮座や花瓶の特徴に注目し、多摩川流域に分布する「蝶型蓮座板碑」に分類される事例を紹介している。

一方、佐倉市の石神第１地点や八千代市の間見穴遺跡など開発に伴う発掘調査で、埋蔵された状態での板碑の発見も続いていて、今後、墓制との関連などの謎も解き明かされつつある。

『八千代の歴史　資料編』や『千葉縣史料』掲載の板碑データは貴重な資料であるが、やはり拓影または鮮明な写真の必要性を強く感じさせられる。八千代市立博物館や所蔵者などの協力を得て、これらの再調査を行って集成を完成させるとともに、未知の板碑が市民からの情報で新発見されることを願っている。

表１　八千代市内板碑の検出地と主尊別

八千代市地域別基数

地域	種字	題目	不明	計	
神野	39		3	42	
米本逆水	26			26	
村上	16		6	22	
米本	19		1	20	
下高野	6		1	7	
萱田	3			3	
吉橋高本	2			2	
神久保			1	1	
上高野	1			1	
桑納		1		1	
保品	1			1	
小池		19	1	20	日蓮宗地域
島田	2	6		8	
佐山	1	3		4	
平戸	1	3		4	
真木野	3			3	
	120	32	13	165	

表２　白井市内板碑の検出地と主尊別

白井市地域別基数

地域	種字	題目	不明	計
七次	101	3	17	121
法目	19			19
平塚	16		1	17
今井	3		1	4
神々廻	4			4
冨塚	1	1		2
清戸	0	2		2
長殿	1			1
折立	1			1
不明	2			2
	148	6	19	173

表３　八千代市内板碑の主尊別基数

総数	種字板碑	題目板碑	不明
165	120	32	13
割合％	73	19	8

種字	阿弥陀一尊	105
	阿弥陀三尊	11
	釈迦	1
	観音	1
	大日	1
	十三仏	1
題目	一遍首題	17
	題目二尊	5
	曼荼羅	10

表４　白井市内板碑の主尊別基数

総数	種字板碑	題目板碑	不明
173	148	6	19
割合％	86	3	11

種字	種子	17
	阿弥陀一尊	114
	阿弥陀三尊	12
	阿弥陀地蔵二尊	1
	釈迦	2
	十三仏	2
題目	一遍首題	3
	不明	3

図１　八千代市内と白井市内の主な板碑の拓影

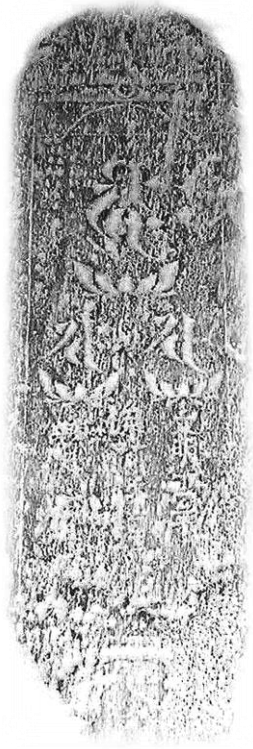
①白井市法目仏法寺 **阿弥陀一尊種字**板碑 元徳３年（1331）	②八千代市神野小名木家 **阿弥陀一尊種字**板碑 建武３年（1336）	③八千代市上高野金乗院 **阿弥陀三尊種字**板碑 文明 11 年（1479）	④白井市平塚山本家 **釈迦一尊種字**板碑 乾元２年（1303）
			
⑤八千代市神野三橋家 **十三仏種字**板碑 年欠	⑥白井市清戸船橋 CC **一遍首題**の題目板碑 応永 24 年（1417）	⑦八千代市小池浅野家 **題目二尊**の板碑 明応４年（1495）	⑧八千代市小池妙光寺 **十界曼荼羅**の題目板碑 延徳４年（1492）

表 3　八千代市内板碑の主尊別･年代別基数

年代	釈迦	阿弥陀一尊	阿弥陀三尊	他の種字	題目	無・不明
1290		2				
1310		1	1			
1330	1	9	1			1
1350		6				
1370						
1390		2			4	
1410					2	
1430					1	
1450		6			1	3
1470		4	2		4	
1490		6			4	1
1510		4			2	

表 4　白井市内板碑の主尊別･年代別基数

年代	釈迦	阿弥陀一尊	阿弥陀三尊	十三仏	題目	無・不明
1300	1					
1310	1	1				1
1330		2				1
1350		4	2			1
1370						
1390		1				1
1410					1	
1430		1	1			
1450		2	1		1	2
1470		8	2	1		2
1490		5				
1510		1				

図 2

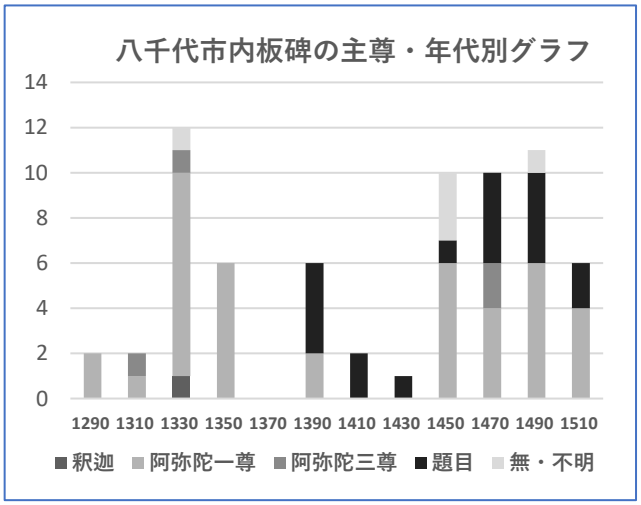


図 3

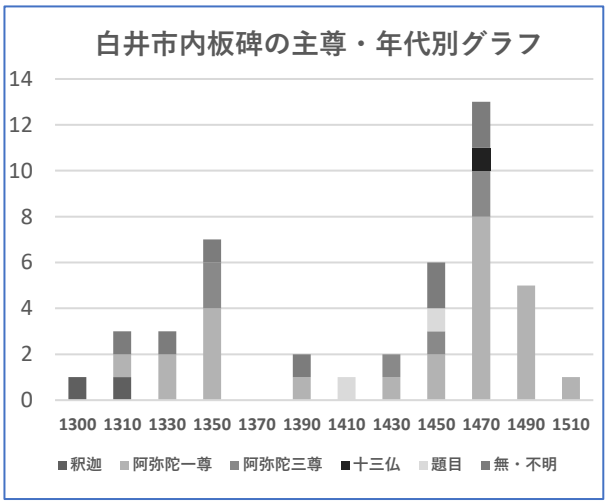


図 4　千葉県域の板碑の年別グラフ

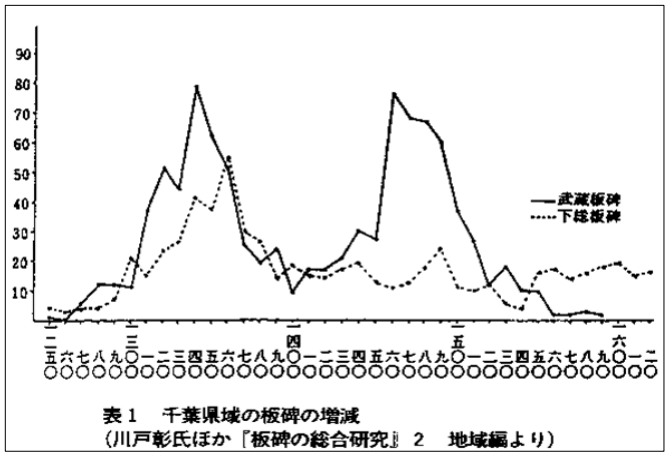
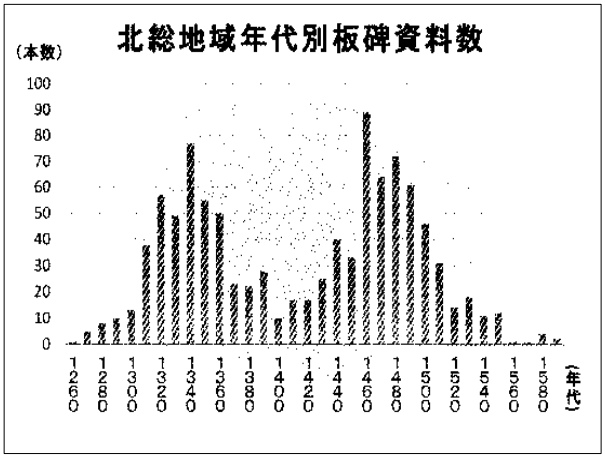



図 5　北総地域の板碑の年別グラフ（『歴史のしずく』より）